

# 15分勤務 最初の一步

## ひきこもりの若者雇用「好きな時に来て」

ひきこもりや不登校の若者に働きやすい場を提供しようと、最短で「十五分」勤務しただけで賃金を支払う珍しいカフェが今春、愛知県春日井市にオープンした。内閣府の調査では、ひきこもりの人たちは就労関連の理由でつまづくことが多い。十五分という短さによって、心理的なハードルを下げる効果が期待できるとして、専門家も注目している。

(長田真由美)

### 春日井のカフェ



後片付けをする男性も小栗加奈さん  
 愛知県春日井市のワンぼていにて

JR勝川駅から徒歩約十分。住宅街の一角にあるカフェ「ワンぼてい」で今夏、スタッフの男性(ミ)が黙々と皿を洗っていた。勤務表はない。好きな時に来て、最短十五分から働ける上、十五分単位の増やせる。賃金は愛知県の最低賃金(時給九百五十五円)に基づき、十五分につき二百二十九円だ。

男性は高校卒業後、正社員として電子部品工場で働いた。だが、先輩社員に仕事を教えてもらえず精神的につらくなり、八カ月で退職。業種を変えてアルバイトもしたが、人間関係に疲れて辞めた。その後、一二年ほど家に閉じこもっていたという。

「来てもいい。来なくてもいい」という店の考え方が、気持ちを楽しんでくれた。就労支援事業所からカフェの紹介を受け、開業当初から週一回、二〜三時間ずつ通い始めた。接客は苦手なため、厨房で調理や皿洗いを担当。徐々に勤務を増やし、今は多い時で週三日、四〜五時間ずつ働いている。

カフェは、この男性を含む三人を「十五分雇用」の枠で採用し、タイムカードで労働時間を管理する。他に通常の

パート従業員が三人おり、うち一人と経営者の小栗加奈さん(四)の計二人が常駐して、十五分雇用の三人が自由に働ける仕組みを整えている。

さらに不登校の中学生四人を「職場体験」として受け入れていた。同じく十五分単位の体験でき、時間に応じて図書券と店の割引券を渡す。友達との人間関係に悩み、不登校になった中学三年の女生徒(五)は五月から月二〜三日、四〜五時間ずつ接客に挑戦。「だんだん声をかけられ

ても平気になった。お客さんの「ありがとう」の言葉がうれしい」と話す。

主婦だった小栗さんが店を開ききっかけは、中学三年の三女(八)の不登校。小学五年の頃から学校を休むようになった。「学校に行かなくてはどう思っけど行けない」とつづむく三女を見て、「社会に出るのが難しい若者が、社会に出る前の練習の場をつくらう」と思い立った。クラウドファンディングで集めた約八十五万円を開業し、三女も職場体験をしている。

内閣府の二〇一六年の調査によると、半年以上自宅に閉じこもっている十五〜三十九歳のひきこもりの人は推計五十四万一千人。きっかけは「職場になじめなかった」「就職活動がうまくいかなかった」など、就労に関するつまづきが目立つ。

厚生労働省の委託を受けた相談拠点「地域若者サポートステーション」は全国百七十七カ所にあり、働く意欲を引

小栗さんは「もっと高い時給がいい、と別の職場に移ってもらうのも大歓迎。誰かのために働くと生きがいにつながる」と願う。問い合わせはカフェのメール＝tomarigi.kasugai@gmail.com＝へ。

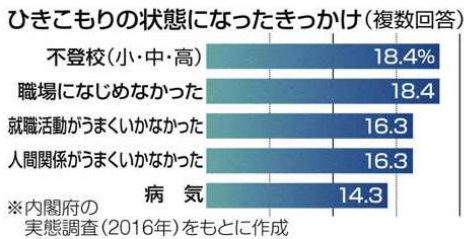
短時間新しい試み  
 ひきこもり支援に詳しい愛知教育大の川北稔准教授の話。わずか十五分から雇う試みは新しい。ひきこもりの人が職業訓練を経て就職しても、フルタイムが条件だと道のりが長いと感じるだろう。もし途中で辞めると「また失敗した」と悩む恐れもある。十五分単位なら、あまり緊張せず働ける上、「働くことができた」という自信がつきやすくないか。

き出すことから、職場定着までを支援している。最近、ハローワークも就労に悩む若者の専用窓口を設置している。

福井県越前市の場合、インターネット上の仮想空間「メタバース」を使った、ひきこもりの人の支援を検討中だ。「アバター」と呼ぶ自分の分身キャラクターを登場させ、自由に動かせる。外出が難しく、他人と接するのが苦手で、社会とつながれる可能性がある。担当者は「当事者が行政に何を求めているか本音を聞き、どんな就労支援ができるか検討したい」と話す。

### 「就労」つまづき多く

全国に推計54万人超



内閣府の二〇一六年の調査によると、半年以上自宅に閉じこもっている十五〜三十九歳のひきこもりの人は推計五十四万一千人。きっかけは「職場になじめなかった」「就職活動がうまくいかなかった」など、就労に関するつまづきが目立つ。

厚生労働省の委託を受けた相談拠点「地域若者サポートステーション」は全国百七十七カ所にあり、働く意欲を引